

研究主題

通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒への支援の充実に関する研究

—校内資源を活用した校内支援体制の確立を目指して— (第2年次)

【研究担当者】 佐藤 淳 森 和佳子 近藤 健一
外館 悌 田代 由希

【この研究に対する問い合わせ先】

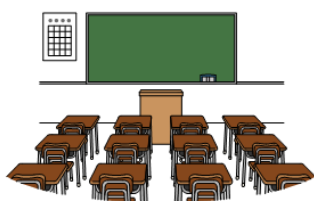
Tel 0198-27-2821 FAX 0198-27-3562 E-mail sien-r@center.iwate-ed.jp

研究の構想

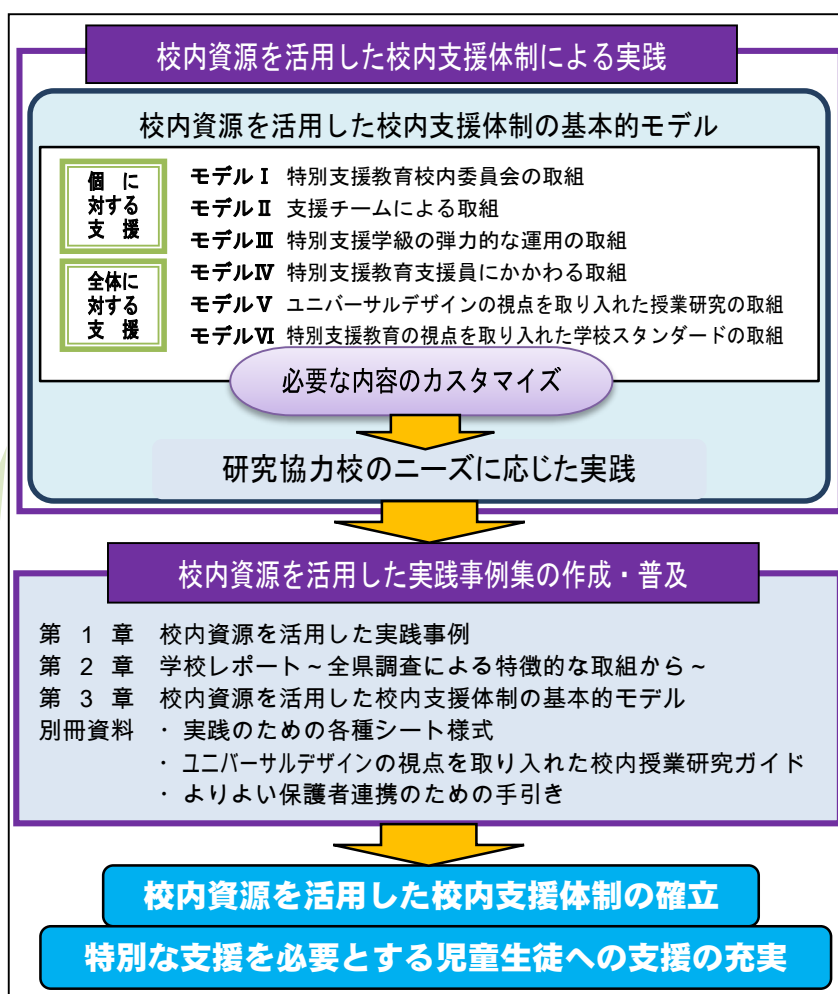
本研究では、校内資源を活用した校内支援体制を構築していくための視点を、支援を必要とする児童生徒に対する支援「個に対する支援」と、支援を必要とする児童生徒を含めた「全体に対する支援」の二つの視点からとらえるとともに、研究第一年次における全県調査結果の分析を反映させた、校内支援体制の基本的モデルを策定しました。

実践にあたっては、研究協力校5校において、学校ニーズに応じて、基本的モデルをカスタマイズし、校内資源を活用した校内支援体制による取組を進めました。

校内資源を活用した校内支援実践事例集



岩手県立総合教育センター
教育支援相談担当



研究協力校5校の実践や、研究第一年次の全県調査において把握された特徴的な実践、再構成した基本的モデルをまとめた内容で、「校内資源を活用した校内支援実践事例集」を作成しました。また、別冊資料として、基本的モデルに基づく取組の活用ツール、全県調査におけるニーズを基にして作成した「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた校内授業研究ガイド」及び「よりよい保護者連携のために」をまとめました。

研究協力校の実践

盛岡市立都南東小学校「学級経営の充実に重点を置いた学校スタンダードの取組」

○学級経営の充実にするために、『聴くことができる学級』と『互いの特性を理解し合う学級』の2点に重点をおいて実践に取り組みました。

物的環境の整備

刺激量の構造化

- 教室前面の刺激量の調整
- 学級目標の在り方
- 黒板の使い方
- 机上の使い方
- 教室内の環境の整備

場の構造化

- 教室側面等に既習学習の掲示
- 小黒板等にヒントの掲示
- 学習ルールの掲示
- 場の使い分け

時間の構造化

- 授業展開の工夫
 - ・ユニット化
 - ・動きのある活動
- 時間の見通し
 - ・開始終了時間の厳守
 - ・タイマー等の利用

人的環境の整備

学習ルールの徹底 児童同士

- 姿や形の徹底
- 落ち着いた学習環境

発話の整理 教師

- 静寂のある学習環境
- 話し方の工夫
- 話し構成の工夫
- 視覚化・モデル化による補助

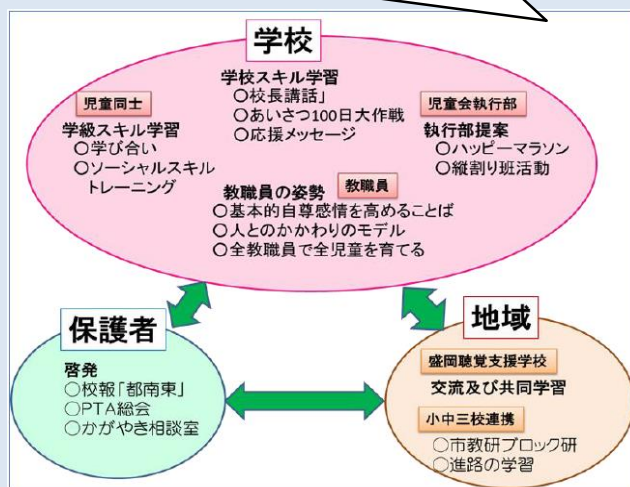
物的・人的環境の整備

座席の工夫

- 特性に応じた座席の配慮
- ペア学習、グループ学習に配慮した座席
- 刺激の統制を図った座席の配慮
- 人間関係を育てる座席の配慮

○互いの特性を理解し合う学級を目指し、「学校スキル学習」、「学級スキル学習」、「教職員の姿勢」、「保護者や地域への啓発」等の視点に基づき取り組みを進めた。

○校長講話を全校で取り組むスキル学習の場として、学級における学び合いのルールを設定したりといった取組により、学校全体としてのスキルの定着が図られ、お互いを認め合う姿が多く見られるようになってきた。



○聴くことができる学級を目指し、「物的環境の整備」と「人的環境の整備」の視点から取り組んだ。

○児童が『聴くこと』ができるようになり、学校生活が落ち着き、自分から判断し行動できる児童が育ってきたなどの効果が確認された。

平泉町立長島小学校「担任、通級指導教室担当者、支援員等によるチーム支援」

○教科毎に見受けられる児童の学習状況に応じた支援の充実に目指し、学級担任に加えて特別支援教育支援員や通級指導教室担当者などの校内資源による支援チームを編成して実践に取り組みました。

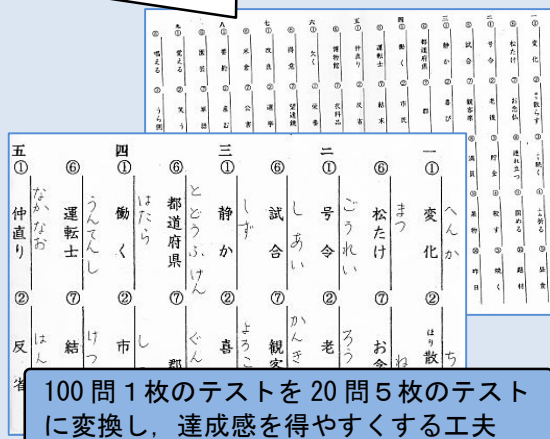
支援チームメンバーとその役割

組織・人材	役割
学校長	校内支援体制の推進、通級指導教室担当者の弾力的運用に関する方針の決定、授業補充時の実際の指導
副校長	校内支援体制の調整、授業補充時の実際の指導
教務主任	授業体制に応じた時間割、学習場所の調整
特別支援教育C○	特別支援教育校内委員会の主務、支援チームの編成、支援会議の主務、指導状況の把握、授業体制の検討、個別の指導計画様式の作成
通常の学級の担任	支援対象児童の実態把握、個別の指導計画の作成、個別の教育支援計画に基づく指導・支援、単元前の授業打ち合わせ
通級指導教室担当者	教科による個別指導・支援、指導状況の報告
特別支援教育支援員	支援計画に基づく指導・支援、単元前の授業打ち合わせ、対象児童に応じた学習教材、シートの準備・工夫

○通級指導教室の弾力的な運用により、少人数指導において特別支援教育の専門性を生かし、児童の得意さに着目した学習活動の設定や教材の工夫がなされ、児童の意欲的な取組に反映された。

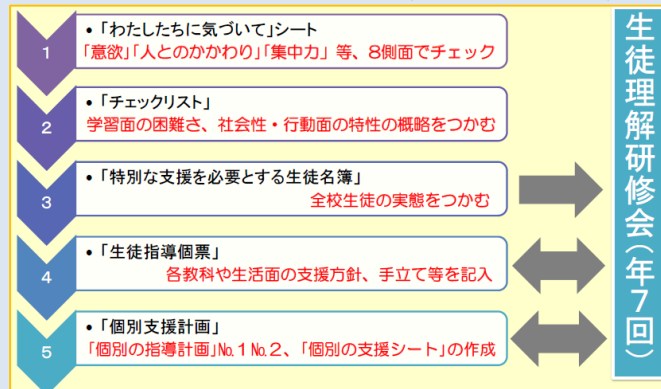
○担任や支援員が進める一斉指導場面におけるヒントも、通級指導教室担当者から多くの情報が得られた。

- 特別支援教育支援員を支援チームのメンバーに位置付けながら、児童にかかわる情報共有から具体的支援、評価までにかかわる役割を示した。
- 支援員の情報提供に対して、学級担任が次への支援に生かそうとする姿勢で受け止めていったことにより、支援員がよりチームにおける自己の役割意識を感じ、支援に当たることができた。
- 対象児童の学習意欲の持続、向上といった面で効果的な支援につながった。



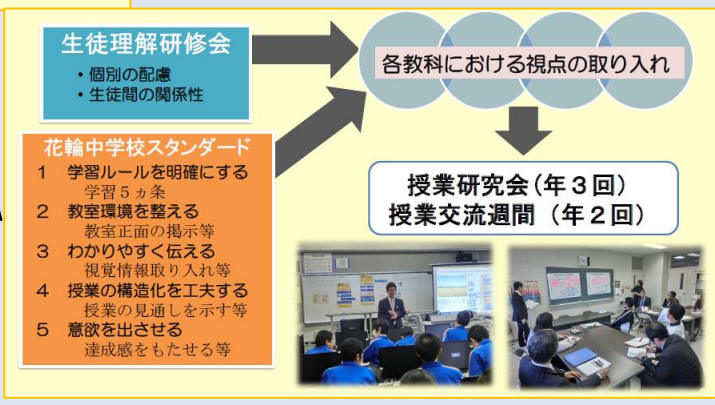
宮古市立花輪中学校「生徒理解に基づき、特別支援教育の視点を取り入れた授業実践」

○個々の生徒の学習、生活の状況について、校内的に理解を深め、授業づくりの充実を図ることが校内支援の両輪となると考え、年間を通して、生徒理解研修会及び校内研究会を開催しました。



○生徒理解のためのステップやいつまでにどのような資料を作成すべきかなど、スケジュールが明確に示されることで、統一した基準で生徒理解を進められることができた。
○生徒理解研修会で継続的に検討されてきた生徒の具体的な支援方策が具現化する過程を全職員が共有できる仕組みが整えられた。

○花輪中学校スタンダードを授業改善の共通ツールとして用いることにより、授業に取り入れる特別支援教育の視点が明確になった。
○授業研究会や授業交流週間における実践・参観をとおして、各自の実践を振り返り授業改善につながる取組となった。



基本的モデル活用の成果

研究協力校5校はそれぞれ、基本的モデルを複合的に取り入れ、各校の実情に応じてカスタマイズしながら実践に取り組みました。基本的モデルごとの成果については下表のとおりです。

この6つのモデルに基づいた取組それぞれが、「個に対する支援」、「全体に対する支援」として、校内支援体制として有効な機能を果たすことが確認できました。

		都南東小	滝沢第二小	長島小	花巻中	花輪中	成果
基本的モデル	I				○	○	・支援を必要とする児童生徒の理解 ・校内体制による取組の方向付け
	II			○			・機能性を生かした組織的支援 ・担任を支える校内体制
	III	○		○	○		・専門性を生かした支援 ・校内授業研究推進にかかわる視点の手がかり
	IV			○			・情報共有、支援内容の検討を経ての支援の充実
	V	○	○		○	○	・困りやつまずきに基づいた支援の工夫 ・分かりやすい授業への改善
	VI	○	○			○	・基本的なルールの確立 ・児童生徒にとっての過ごしやすい学校づくり

ユニバーサルデザインによる授業づくり



滝沢市立滝沢第二小学校

○一人一人の児童の「困り」を的確に把握し具体的な支援を検討していくこと、単元の特徴をふまえながら支援を必要とする児童及び全体への指導の工夫をしていくことが重要と考え、算数科における全ての子どもが分かる授業づくりの研究に取り組みました。

視 点	手立てと取組
児童の実態「困り」把握	・レディネステストによる既習内容の理解の把握 ・日常の観察による算数の授業への集中力や、チェックシート等による実態についての把握
「困り」に応じた指導の工夫	・全ての児童が学習活動に取り組むことができるよう、学習活動の焦点化を図る。 ・「困り」が予想される児童への支援を指導過程の中へ位置付け、確実に課題に取り組める手立てを組む。
問題解決の達成感を得られる終末の工夫	・終末の適用問題の内容や取り組み方を工夫することで、児童一人一人に達成感をもたせ、次の学習への意欲につなげる。

過程	おもな学習活動と児童の反応	ユニバーサルデザインプランの視点
つかむ	1 問題把握 72÷3	○前時学習内容を教室内へ提示。 ○提示する問題に口を入れ、前時とのつながりをもてるようにする。 ○色紙の提示。
見とおす	2 学習課題の確認 九九1回ではとけない問題の、計算のしかたを考えよう。	○九九表で九九1回でできないことを確認する。
	3 課題解決の手がかりをつかむ	○必要に応じて九九表を使用できるようにする。
深める	4 自力解決をする ・ノートへ考えを記述	○図形や記号に苦しさがあると予想される児童には、具体物や半具体物を勧める。
	5 ペアで交流する ・ホワイトボードへ記述、説明	○抽象言語型(Aタイプ)の児童には、ペアの場面、感覚運動型(Bタイプ)の児童には自力解決の場面を大切に支援する。
	6 全体で交流する ・ホワイトボードを黒板に掲示し話し合い	
	7 まとめる	○3種類の適用問題を用意する。
まとめる	8 適用問題に取り組む 9 ふりかえり 10 次時の学習内容を知る	

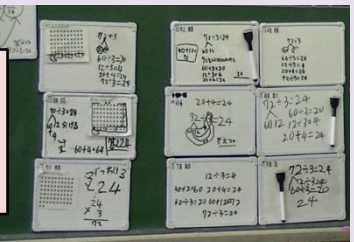
4年

1 困りの把握

レディネステストや教研式サポート学習支援システムの結果から、児童の考えの傾向や特徴を捉え、授業展開・支援内容を考えたことが学習の理解促進につながっていた。

2 共有化

板書に貼られた児童の考えを手立て毎にグループ化することで、共有化に効果的だった。



3 適用化

3種類の適用問題に自己選択で取り組み、どの児童も達成感を得ることができた。

○「基礎・基本の確かな定着を図る指導法の改善」を研究主題に掲げ、「誰にでも分かる授業づくり」、「基礎・基本の確かな定着を図る授業づくり」をユニバーサルデザインの手法を用いて校内研究として取り組みました。

ユニバーサルデザインの視点を全教員で共通理解し合い、普段の授業の中で具体的に取り入れていく手立てとして①②の取組が有効に機能した。

	学 習 項 目	学 習 活 動	指導上の留意点	UDの視点
導 入	1 基本単語の練習	○スラスラ英単語シートで自分のレベルに合わせた単語練習(音読)を行う		・スパイラル化
	2 課題確認	教科書で紹介されたガリバー旅行記を参考に、新しい国を作って、みんなに紹介しよう。		
展 開	3 教科書本文の内容の復習	○教科書本文について、Q&Aを行う。 ・口頭によるQ&A	・英単語レベルの応答を文レベルの応答にさせるようにする。	・視覚化 ・クラス内の理解促進 ・視覚化 ・共有化
	4 オリジナル英文の作成(2回目)と発表	○グループで新しいガリバー旅行記を作る。 ・グループでオリジナル旅行記を作る ・発表及び教師のコメント	・「Q&A学習シート」を使用 ・学習シートの使用	
終 末	5 次時の予告と単元評価カードの記入	○次時の予告と単元評価カードへの記入	・単元評価カードの使用	

2年英語科

1 視覚化

学習プリントの視覚化は、文法構造が把握しやすく、矢印及び色分けられたペンの表示等も加わり、理解しやすいものとなった。

	疑 問 詞	1 主語	2 動詞	3 その他
疑問文 (なぜ)	Why	are the people		afraid of Gulliver?
答	Because	he	is	so big.
疑問文 (いくつ)	How many stories	are there		in Gulliver's Travels?
答		There	are	four stories.

2 共有化

グループ毎にオリジナルの旅行記づくり、音読する英文の分担及び発表のための練習に取り組んだ。生徒の主体的活動と学習定着に有効だった。



花巻市立花巻中学校

1 特別支援学級「数学科」の授業を参観

内容

特別支援学級で日常的に行われているUDの手法を全教員で共通理解を図る。

2 授業研究会における教科グループごとの検討

内容

教科毎に取り入れることが可能なUDの手法を検討する

研究内容の詳細や「校内資源を活用した校内支援実践事例集」は、当センターWebページに掲載しています。